

自己評価票

自己評価は全部で100項目あります。

これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。

項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目(例えば、下記項目の や 等)から始めて下さい。

自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。

自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

記入方法

[取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

[取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に をつけます。

[取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。

また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。[特に力を入れている点・アピールしたい点](アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(1から 87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(88から 100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名 (ユニット名)	グループホームはるかぜ西陵 1階
所在地 (県・市町村名)	鹿児島県鹿児島市西陵五丁目12番4号
記入者名 (管理者)	池島喜代子
記入日	平成 20年 4月 20日

(部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
理念に基づく運営				
1. 理念と共有				
1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	自分達で作上げた理念があります。その中に、地域の中のグループホームとして、利用者が住みなれた地域で、安心して生活できるよう支援するための理念も掲げてあります。		
2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	毎朝スタッフ全員で唱和し、実践につなげるようにしています。		
3	家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	利用者の方、家族の見学の際理念の説明をさせていただくと共に、玄関の掲示板や、エレベーター、各フロアの目のつくところに、理念を張り出しています。		
2. 地域との支えあい				
4	隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	開設以来6年半を経過して、地域の中のグループホームとして認識を頂いています。利用者の散歩や、外気浴のとき、また、スタッフが外回りの清掃などするとき、通りがかりの方がたと、気軽に挨拶を交わしています。		
5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会に加入し、地域の情報の回覧チラシなどの配布を頂いています。運営推進会議を通して、町内会の役員の方々との交流もできています。おはら祭り、夏祭りでも見物して、利用者の方々にも喜んでいただいています。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	毎月一回出勤時間を多少早めて、地域清掃に取り組んでいます。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	グループホームが、利用者、家族、スタッフそれぞれにとって、居心地の良い安心できる環境となるように、1年に1回自己の振り返りを行うことはとても重要なことだと考えています。具体的な指摘は受けてはいませんが、過去2回の、調査員のコメントなどを参考に、改善を実践しています。		
8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	おおむね、2ヶ月に1回の実施。とのことですが、管理者個人の見解で恐縮ですが開催についての負担感(時間的余裕がない。出会依頼についての遠慮がある。)があるのが、本音です。		今後は工夫をして、2ヶ月1回の開催を目指して行きたいと思います。
9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	昨年、運営推進会議に地域包括センターの職員の方にも出席していただきました。市の職員の方には、「とても、勉強になりました」と言って頂けました。今後も市のほうとも連絡を取り合って行きたいと思っています。		
10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	認知症により、判断力の低下がある利用者の権利擁護について資料書籍等で勉強しています。いまのところ、成年後見制度など、具体的に活用しているケースはありません。利用者の権利が侵されたり、事業所への影響が懸念されるようなケースでは、利用者、家族に提案等が出来るようにしていきたいと思います。		
11	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体的な暴力、言葉の暴力等、人道的にまた法律にも禁じられた高齢者に対する虐待が起きることが無いように、常日頃から申し送り時、スタッフミーティング時を利用して研修を重ねています。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制				
12	契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時、十分な時間をとるように心がけ重要事項説明をし、で契約を結んでいます。契約書外の、利用者個々に応じたこまごまとした取り決めも家族ホーム側とよく話し合ってお互い理解を得るようにしています。		
13	運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	御意見箱を設けており「いつでもご意見をお聞かせください」というメッセージをおくっています。また、苦情相談窓口についての案内も、入居時の説明のときに行っています。		
14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月、利用料の請求書と共に、預かり金の出し入れの状況をお知らせしています。同時に、生活のご様子をホーム便りとして発信しています。また、特変のあったときは家族に対して、面会のときや、電話などで丁寧に連絡を取り合っています。		
15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	さしあたって、相談、苦情に至るまでの懸案が無いということもあり、第三者委員などを交えた家族会の実施はありません。しかしながら、外部評価の家族アンケートを参考にさせていただいたり、日頃の、御家族とのやり取りのなかで、忌憚の無いご意見を聞かせていただいています。		
16	運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月、運営者と管理者の話し合いがあり、問題点の協議、意見提案、また研修の出来る場が持っています。またスタッフミーティングを定期的に行き、スタッフの意見の言える場を設けています。何でも言える雰囲気作りが出来ていると思います。		
17	柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	グループホームの人員基準以外にも、必要に応じて、増員確保しています。もっと、余裕を持った人員配置をしたいと考えていますが、介護職の雇用が、難しい現状もあります。		
18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	利用者の皆さんが、なじみのスタッフの支援を受けられるよう、みなで働きやすい職場作りをするのと同時に、やむなく、異動退職のある場合も、利用者への影響を最小限にするようにしています。異動、退職によるダメージは生じていないと思います。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修の案内や紹介をしてもらい、随時研修に参加しています。また、研修報告をミーティングのときに発表しています。	
20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	鹿児島県、鹿児島市のグループホーム協議会に加入し、随時勉強会・交流をしております。	
21	職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	運営者と管理者の定期的な話し合いの中で、働きやすい職場作りの意見交換を行い、環境作りに取り組んでいます。また、管理者は、利用者やスタッフ間の人間関係に注意を払い、声を掛け話を聞くように心がけています。	
22	向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	職員それぞれの、勤務態度その他の状況把握ができており、個々が意欲を持って働いています。資格取得についても、奨励しています。	
安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	実際に困っておられることやどういう生活を望んでいらっしゃるのかを聞かせていただき、事前に、ご利用者本人のホームの見学をお勧めしています。その際、ホームの状況、運営方針などの(理念もふくめ)ご説明をさせていただいています。	
24	初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	ご家族が困っていること、不安なこと、求めておられることについても事前の施設見学、電話などで聞かせていただき、安心してご利用いただけるように努力しています。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	介護保険の中のグループホームとしての位置づけを、よく説明し、必要であれば、その方にあった介護サービスの、案内をしています。		
26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用者の性格、生活歴などが分かるように事前の情報収集につとめ、職員間で情報共有するようにしています。個々の事情に合わせて早くなじみの場所になるように支援しています。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	認知症の人として捉えるのではなく、人と人のお付き合いという姿勢で、いろんな話をし、一緒に笑い、たまには慰めてもらったり、教えていただくことも多いです。		
28	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	本人にとってどうあることがいいのか、ホーム側と家族がいっしょに話し合い協力できる関係を築いています。特に、重度化や医療ニーズの高くなった利用者については、家族の協力が不可欠で一緒に支えていく関係となるように努力しています。		
29	本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	ホームに入られてからも、家族が気軽に面会にきていただけるような雰囲気作り、声かけをしています。ご家族との外出、外泊も実施されています。家族や家族外の方と、認知症によりコミュニケーションの難しくなった利用者の方の橋渡しを行い関係性の継続が図れるようにしています。		
30	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご本人を取り巻く人間関係、家族、親戚、隣近所などの方たちの関係が途切れないように、電話や手紙、面会などが出来るように支援しています。		
31	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	利用者の方の人間関係を把握し、その言動行動に対して一般的な価値基準を当てはめることの無いように、また、一人一人が孤立することなく、一つの大きな家族であるのとらえ方で接しています。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	退居理由はそれぞれですが、最近では長期入院される方、入院を繰り返される方、入院先で亡くなるケースなどもあり、相談に応じて、心的支援ができるようにしています。		
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居時や、面会、プラン会議、申し送り時、ミーティングなどの機会に、本人、家族、スタッフの意見を集め、何を望んでおられるかの把握に努めています。また、本人の意思、希望の把握困難の場合も、その思いに近づけるよう話し合いをしています。		
34	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前、入居時、入居後、情報収集に努めて、スタッフが情報共有し、ケアにあたっています。また、ライブシーについては、慎重に取り扱うことを家族に説明しています。		
35	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	スタッフは、その方の健康状態、心の状態をよく観察し、したいこと、出来ることの把握に努め適切なケアが行えるようにしています。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	プラン作成にあたっては、本人はもちろん、家族、スタッフの意見を聞く場を設けている(サービス担当者会議の開催)。		
37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	期間終了前、状態変化時に応じて、サービス担当者会議を開き、見直し、あるいは、変更のプランを作成しています。また、毎月1回実施記録を点検し、変化への対応、ケアのアイデアなどが、プランに反映できるようにしています。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	健康面、生活面、その方のリスクその他記録をし、プラン作成の参考にしており、よりよいケアができるようにしている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	介護保険の中のグループホームとして、対応できることはやっていきたいと思っています。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	ホームとして、警察、消防の協力をお願いしています。(防災訓練など)また、中学校との交流もさせていただいています。(運動会応援、昨年は、PTAの役員の方に、運営推進会議に出席していただきました。)		
41	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	今のところ、ありません。		
42	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	今のところ、ありません。		
43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族の希望のかかりつけ医で、受診していただいています。		

鹿児島県 はるかぜ西陵

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	必要と思われる方については、認知症に詳しい医師を受診、相談治療を受けられるようにしています。		
45	看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	昼夜を問わず、健康面での心配事については、協力医療機関のホットラインで看護職の助言がもらえるシステムとなっており、必要なら医療機関への橋渡しもしていただいている。		
46	早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	認知症の方の特性を捉え、環境変化の影響を少なくする意味でも、可能であれば早く、ホームへ戻っていただけるよう病院側と相談連携するようにしています。		
47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	特変時、サービス担当者会議などの機会を捉え、重度化、終末期について話し合い、その時の方針について一緒に考えている。が、非常に微妙で、難しい問題であると感じている。その時々話し合いの内容は、スタッフとも情報共有できるようにしている。		
48	重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	介護度の高くなってこられた方もありますが、スタッフも、出来る限りここでお過ごしいただけることを願っています。ターミナルについての経験は今のところありませんが、それに近いケースはありました。医療ニーズが高くなってこられた場合、最終的にはホームでの生活は難しく、必要に応じ、家族とともにかかりつけ医に相談しながらそれなりの対応(入院、退居なども含め)を行っています。		
49	住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	認知症の方にとって、環境の変化はおおきなダメージとなるのでその方の、御病気、服薬、生活状態、生活歴、性格などの情報をすぐに提示できるように、かねてから、介護継続表の準備をしています。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
・その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1) 一人ひとりの尊重			
50	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>利用者の方の、プライドやプライバシーに十分配慮し丁寧に対応しています。記録等の個人情報についても慎重に取り扱いを行っています。</p>	
51	<p>利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている</p>	<p>利用者の方はどんなことを思っているのか？どんな希望をもっているのか？日ごろの会話の中でその思いを語っていただけのようにと心掛けています。(食事のメニュー、見たいテレビ、入浴の時間などなど)</p>	
52	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>食事時間をベースに、ある程度規則正しい生活、張りのある生活をとは考えますが、利用者の希望に応じることはもちろん、一人一人の体の調子なども考慮して柔軟に対応するようにしています。</p>	
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	<p>身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている</p>	<p>身だしなみ、おしゃれのおてつだいをしています。家族でカットしてくださる方もあります。また、近くの美容室に出かける方もあります。</p>	
54	<p>食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>皆さんそれぞれ、個性があって、声かけ、案内により簡単な調理参加はありますが、職員中心の食事作りとなっています。それでも、食事を楽しみに、みんなで一緒に食卓を囲み、笑顔の食事風景です。</p>	
55	<p>本人の嗜好の支援</p> <p>本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している</p>	<p>コーヒーや、ジュースなどの飲み物などは、お好みのものを準備します。お正月や、忘年会などの行事のときに、ビールを飲みたい方にはおすすめしています。</p>	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	スタッフが、排泄のパターンを把握できており、その方にあった、排泄の支援ができています。		
57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	週3回(火、木、土)の入浴日をもうけています。その日の中で、特に入居者の希望(入る順番、時間など)があれば、対応するようにしています。		
58	安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	生活習慣、表情観察などで、疲れが見えたときなど、安静にする時間を設けています。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	歌の好きな人、散歩の好きな人、洗濯物たたみ、得度を受けている方がありスタッフと一緒にお経を念じたり、好きなテレビを見ていただいたり、それぞれ、好きなことの把握をして、それらを取り入れていながら生き生きと生活していただけるように心掛けています。		
60	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	できる方に対しては、お財布をもっただき、ご自分の好きなものを買に出かけられるように支援している。		
61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	外出の要望等あれば、一緒に出かけるようにしています。が、申し出のあることがすくなく、こちらからの主導のことが多いです。お買い物などにも一緒に出かけています。		
62	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	車いす使用となり、なかなか、御自宅に帰れない人を短時間ではありましたが、スタッフがお手伝いして帰宅がかないました。御近所の方たちと久しぶりに会い、ご家族ともとても喜んでいただきました。普段いけないところへの外出支援は、ご希望に応じて今後も取り組んでいきたいと思ひます。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話も自由に使っていただけるようにしています。手紙を書いてみようという方は現在ありませんが、年賀状、暑中見舞いには取り組んでいます。		
64	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	ホームの面会時間は特に設けず、いつでも、気軽に訪問面会していただけるようにしています。また、訪問時はゆっくり過ごしていただけるようにしています。(湯茶の提供などしています。)		
(4)安心と安全を支える支援				
65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	どのようなことが身体拘束となるのか、スタッフ全員が理解し、身体拘束ゼロのホームにすることを誓っています。		
66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関ドアにはカギをかけることなく、外出したい様子があったら、危険の無いように見守りをし、一緒に出かけたりしています。		
67	利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	職員は昼夜を通して、プライバシーにも配慮しつつ、入居者の状況把握に努め、容体変化や、怪我や事故も考えて見守りをしています。		
68	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	共同生活であるので、全体的な危険を考え、危険なものの除去、あるいは保管について、細心の注意を払っている。入居者一人一人の個性、その日の状況に臨機応変に対応するようにもしています。		
69	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	気づきノートなどを活用して、個別のリスクの把握をし事故防止に取り組んでいます。		

鹿児島県 はるかぜ西陵

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	年2回の消防訓練とともに、救急時の対応の勉強会を実施しています。		
71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	近隣施設との連携を、訓練の中に入れて協力をもらうようにしています。		
72	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	リスクについての説明を、その都度あるいは、サービス担当者会議などでおこない、相談しながら対応策を考えている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	バイタルチェック、食事や排泄もろもろの情報と観察により早めの異常発見と、対応ができるようにしている。		
74	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	疾病と薬のことをスタッフが理解し、服薬支援と症状変化の確認をし医療側と相談している。特に、新しく始まった薬など、効果や、副作用についても把握して、状態の観察を強化している。誤配薬が無いように、スタッフ同士、声掛けし、最終確認をして服薬していただいている。		
75	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	便秘により、不穏や混乱が起きているように感じることも多く、高齢者は、ちょっとした体の変調で認知症の症状が強くなる。便秘の予防のために、献立に野菜を多く取り入れ、散歩や、廊下歩行などの運動も取り入れています。排便チェック表も記録して役立てています。		
76	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	介護予防＝口腔ケアとして捉え、毎食後、個別的に、義歯洗浄や、歯磨きの見守り、介助を実施しています。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人、一人の方の食事、水分摂取について記録をすることで健康状態がある程度把握できるようにしており、状態に応じて、食事の形態をこまやかに変えるなどの支援ができています。		
78	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	インフルエンザ、ノロウイルス、大腸菌0157、など高齢の方には生命を危うくする重大な感染症であるので、申し送り時、ミーティングなどで感染対策委員会を開き予防、対応について話し合いをしています。また、県、市からの広報、警報などが出た場合も皆が周知できるようにしています。		
79	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	食中毒予防に関してスタッフが理解しており、調理前の手洗い、調理器具の清潔管理、食材管理を徹底しています。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1) 居心地のよい環境づくり				
80	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関アプローチには、たくさんの鉢花を置いています。(家族のご協力もいただいています)		
81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	全面ガラス張りの、開放感のあるホールで心地よく過ごしていただいています。採光については、カーテンなどで、こまめに調整をしています。また、季節の花、飾りつけなど工夫をして楽しんでいただいています。		
82	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	一人一人の方が、だれにも気兼ねなく、自分の好みの場所で過ごしておられます。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室はその方の生活歴や、個性にそって、それなりに、居心地のよい空間となっています。		
84	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	各居室やホールの換気に努め、新鮮な空気を取り入れています。空調も、冷やしすぎず、暖めすぎず入居者の方に合わせたレベルで行っています。適温敵湿荷つとめています。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室洗面台、ホールの洗面台に車いすが付けにくいなど改良の余地はいろいろあるとおもいますが、諸事情にて改良は難しくハード面では現在の状況に甘んじているところです。ただ可能な限りの工夫は行っていこうとがなっています。		
86	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	現在の環境が原因での混乱は、今のところ、無いと思います。新しい入居のかたなどには、お部屋の表示を大きくしたりしています。		
87	建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	散歩、外気浴をしたり、園芸のできる環境です。		

. サービスの成果に関する項目	
項 目	最も近い選択肢の左欄に をつけてください。
88 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者の
	利用者の2/3くらいの
	利用者の1/3くらいの
	ほとんど掴んでいない
89 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある
	数日に1回程度ある
	たまにある
	ほとんどない
90 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者が
	利用者の2/3くらいが
	利用者の1/3くらいが
	ほとんどいない
91 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	ほぼ全ての利用者が
	利用者の2/3くらいが
	利用者の1/3くらいが
	ほとんどいない
92 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者が
	利用者の2/3くらいが
	利用者の1/3くらいが
	ほとんどいない
93 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	ほぼ全ての利用者が
	利用者の2/3くらいが
	利用者の1/3くらいが
	ほとんどいない
94 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	ほぼ全ての利用者が
	利用者の2/3くらいが
	利用者の1/3くらいが
	ほとんどいない
95 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	ほぼ全ての家族と
	家族の2/3くらいと
	家族の1/3くらいと
	ほとんどできていない

鹿児島県 グループホームはるかぜ西陵

項 目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	<input type="checkbox"/>	ほぼ毎日のように
		<input type="checkbox"/>	数日に1回程度
		<input type="checkbox"/>	たまに
		<input type="checkbox"/>	ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	<input type="checkbox"/>	大いに増えている
		<input type="checkbox"/>	少しずつ増えている
		<input type="checkbox"/>	あまり増えていない
		<input type="checkbox"/>	全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	<input type="checkbox"/>	ほぼ全ての職員が
		<input type="checkbox"/>	職員の2/3くらいが
		<input type="checkbox"/>	職員の1/3くらいが
		<input type="checkbox"/>	ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="checkbox"/>	ほぼ全ての利用者が
		<input type="checkbox"/>	利用者の2/3くらいが
		<input type="checkbox"/>	利用者の1/3くらいが
		<input type="checkbox"/>	ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="checkbox"/>	ほぼ全ての家族等が
		<input type="checkbox"/>	家族等の2/3くらいが
		<input type="checkbox"/>	家族等の1/3くらいが
		<input type="checkbox"/>	ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

開設6年半、当初からの入居の方が3名いらっしゃいます。入院、退居そして、新しい利用者の方との出会いがあり、さまざまなケースを経験することでスタッフ（管理者含め）も大きく成長させていただいています。大家族としてのグループホーム、認知症があっても不安や脅威を感じないで安心できる、空間がつかれていると自負しています。これからも、スタッフのチームワークをフルに発揮して、利用者、家族、スタッフが笑顔で過ごせるはるかぜ西陵を目指していきたいと思います。